東京経済大学報

2013年度　第46巻　第2号

TOKYO TOP3O 計画

Go Forward!

グローバルに！

ここまで大きくは見えませんが、東経大からも、冬はくっきりと。

理事長・学長 新年のあいさつ

新年に際して

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様には、これまでの本学へのご協力に感謝申し上げます。

私立大学を取り巻く環境は、18歳人口の長期的減少傾向、大学進学率が50％を超え、地元志向が強まるなど、大学間競争が一層厳しさを増しています。本学は、建学の精神や教育理念に基づく教育研究活動の将来にわたる発展のために、法人と大学とが一体となり改革を進めることが求められております。学長のもと教育・研究のみならず、学生支援、就職、環境、社会貢献、国際化の重点分野で確たるものにしていくために、法人は、中長期的な事業計画・経営ビジョンの策定に基づき、具体的実行のために支援いたします。

国分寺キャンパスでは、新５号館に続き、新図書館が今年４月に開館予定です。その後、現図書館を大規模改修し、今年の秋には「大倉喜八郎　進一層館（Forward Hall）」に生まれ変わります。なお、現図書館改修計画協賛募金について、目標額を大きく上回る実績となり、この間、多くの学内・卒業生ほか関係の皆様のご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

また、武蔵村山キャンパスについても、スポーツ施設充実のための整備工事が昨年10月からスタートし、2014年度中の完成を目指しております。

本年も、皆様のご協力宜しくお願い申し上げます。

学校法人 東京経済大学　理事長
岩本 繁

「進一層」の精神で

みなさま、あけましておめでとうございます。

3･11から、３年を迎えようとしておりますが、当初「職員有志の会」による学内GPとして開始された東日本大震災復興支援ボランティアは、今年度、全学的な取り組みとなり、のべ16回、実に452名の学生が参加いたしました。経済支援も来年度も継続が決まっています。

日本各地では自然災害で被災された方々が多数、おいでになられる現在、一日も早い復興を引き続き祈念する次第です。

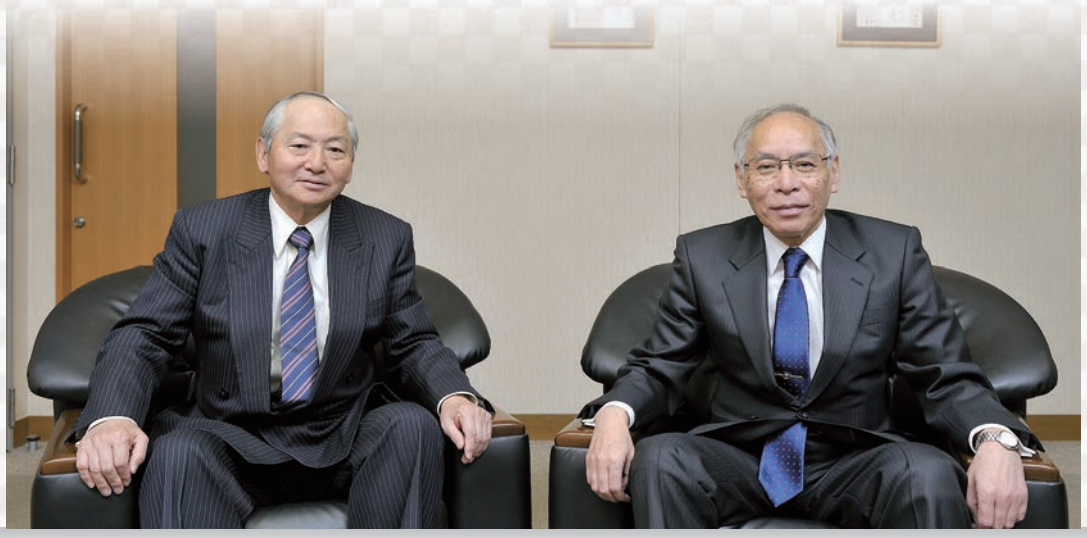
さて、私が学長に就任した2008年には、9月にリーマンショック、株価が急落して日本・世界経済の先行き不透明感が増し、大学の学生諸君の環境も厳しい世相が影を落とす状況で、まさに波乱含みのなかでの船出でした。

それから６年、「就職満足度の高い」伝統校として、教育品質の向上・学生支援などの強化に努め、小規模だが評価できる大学、面倒見のいい大学との定評も得、卒業生のみなさまにも後押しされ、就職率も健闘しております。

ふりかえれば1971年に専任講師に就任して以来43年、今年３月をもって本学をあとにいたしますが、本学を巣立った卒業生たちが、激動の世の中にあっても本学の伝統「進一層」の精神でくじけず成長し、社会の重要な担い手となった姿に再会できることは教員の本懐です。

本年も本学をお引き立てくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

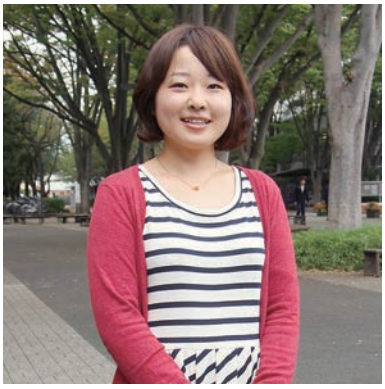
東京経済大学　学長
久木田 重和



頑張りました！

私たちの就活サクセスストーリー

リーマン・ショック以降、大卒者の就職戦線はまだまだ厳しい状況です。
しかし、そんな中にあっても東京経済大学の学生は頑張って、夢を実現させています。
充実した大学生活を送り、大学のさまざまなサポートを活用して内定を手にしたその道のりを、
５人に振り返ってもらいました。

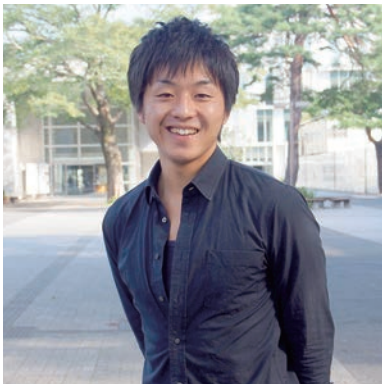


キャリアセンターのおかげで履歴書のアピール力が格段にアップしました

現代法学部４年　川﨑 桃子さん
［内定］日本生命保険相互会社

CSCの仲間と支え合って難関試験を突破しました

経済学部４年　山崎 達也さん
［内定］東京都世田谷区役所



学内のいろいろな人のアドバイスで自分の考えが豊かになりました

経営学部４年　杉本 耕亮（こうすけ）さん
［内定］スズキ株式会社

厳しいゼミで学んだから自分に自信を持って就活に臨めました

経済学部４年　望月 勇（ゆう）さん
［内定］日本銀行

ゼミのあたたかなバックアップで面接試験をクリアできました

コミュニケーション学部４年　島田 咲琳（さりん）さん
［内定］ANAエアポートサービス株式会社

キャリアセンターの指導のおかげで自分の意見を他者にわかりやすく説明する力と面接に臨む心構えを身につけられました

経営学部4年　杉本 耕亮（こうすけ）さん
［内定］スズキ株式会社

志望を固めるために多様な企業の説明会に出席

就職活動を始めた3年次の12月当初は、自分がどのような企業で働きたいかがまだはっきりしていませんでした。そこで、まずは業種も規模も問わず、さまざまな企業の説明会に参加し、経営戦略や今後のビジョンなど、気になったことはなんでも質問しました。

2か月ほどの間に約40社の説明会に足を運びました。その結果、私は、海外にまで広いマーケットを持ち、多くの人がかかわる大プロジェクトに取り組む企業で自分の力を試したいという、自分の気持ちに気づいたのです。

履歴書の添削指導により大学でなにを学んだかを整理できた

志望が固まってきた頃から、私は面接の準備として、キャリアセンターで履歴書の添削指導を受けました。履歴書には、自分が大学生活でなにを学び、将来に対してどのような展望を抱くようになったかなどを箇条書きにしてみました。項目ごとに書いた方が読みやすいと考えたからです。ところが、職員の方には「なにを伝えたいかがわかりにくい」と指摘を受け、文章化するように勧められました。早速実践してみると、確かに文章にした方が自分の成長をストーリー化して効果的に伝えることができます。大学での学びと将来への展望のつながりもより明確になったと思います。

履歴書でなにをアピールするかについても、キャリアセンターからアドバイスをいただきました。所属していたバスケットボール部で率先して練習し、部員の士気を高めた経験を書いた私に、職員の方は「そうした話は多くの志望者が挙げるから、別のエピソードに変えるのも一案だよ」とおっしゃったのです。その指摘には、一理あると思いました。しかし、履歴書で身の丈に合わないことを書いたとしても、面接での受け答えは上辺だけのものになってしまうでしょう。迷った末に、私は内容を変えないことにしました。その代わり、一見ありふれた内容だからこそ、自分がその体験によってなにを学んだかを具体的に説明する必要があると感じ、履歴書の記述をさらに見直したのです。

キャリアセンターの指導のおかげで、自分の思いを他者にしっかり伝えられる履歴書の書き方を身につけ、堂々と本心でぶつかろうという気持ちも固められました。就職活動に対する基本的な姿勢を学べたと思っています。

面接で失敗したら友だちや先輩に相談

面接での受け答えを上達させるには、とにかく場数を踏むことが必要です。初めのうちは要領良く答えられないことが多く、間の取り方や言葉のつかい方などを改める日々が続きました。また、面接をよく突破する友だち、面接が苦手な友だち両方の体験や考えを聞き、勝因と敗因を分析しました。さらに、ゼミや部活動の先輩にも相談し、アドバイスをもらいました。

ただ、友だちや先輩の意見も、あくまでも他者の体験から出たものですから、自分が同じことをしてうまくいくとは限りません。ですから私は、他者の意見を鵜呑みにせず、自分が納得できるものだけを自分のものとするように心がけました。次第に、面接で柔軟に受け答えができるようになったのはその成果だと感じています。第一志望のスズキ株式会社の面接ではまどわずに返答でき、みごと内定を勝ち取ることができました。

就職活動を通して、キャリアセンターの職員の方、友だちや先輩など、さまざまな人の考えに触れ、私は自分の

考えが豊かになったと実感しています。今後はさらに多くの人とかかわって自分を鍛え、スズキ株式会社が日本一の自動車メーカーになるように、貢献したいと思っています。

CSCの公務員講座とキャリアセンターの面接指導で公務員になる夢をつかめました

経済学部4年
［内定］東京都世田谷区役所
山崎 達也さん

科目数が多い試験に対応するため、こまめに復習することを心がけた

もともと公務員志望だった私は、3年次からCSC（キャリア・サポートコース）の公務員講座を週3回、受講するようになりました。地方公務員試験の出題科目は、憲法や民法、日本史、生物と幅広く、初めて学ぶ科目もありましたが、CSCの講義ではどの科目も基礎から丁寧に解説されたので、しっかり理解できました。

ただ、試験科目は20以上にも及び、受講する科目はどんどん増えていきますから、こまめな復習が欠かせません。CSCの自習室は朝から夜まで開放されており、過去の講義内容をDVDで確認することもできるため、授業の空き時間や放課後などにしばしば利用しました。学部の単位は1・2年次のうちにしっかりとることを心がけました。その甲斐あって、3年次からは公務員講座の復習に取り組む時間を十分につくれたのだと思います。

CSCの先生の言葉に励まされ勉強に全力を尽くそうと決意

CSCの講座を受け始めて半年ほど経った頃、既習範囲の確認テストがありました。数学が苦手な私は「数的処理」の問題に苦戦し、成績は振るいませんでした。日頃、努力しているつもりだったのでショックが大きく、「このままでは合格は無理だ……」とあきらめそうになりました。

そんな私を救ってくれたのは、CSCの先生の言葉でした。テスト後の面談で、「今できなくてもこれからの努力によって挽回できる」と励ましてくださり、「本気になれば、1日10時間は机に向かえるものだよ」とおっしゃったのです。「10時間」はそれまでの私の勉強時間の2倍でしたから正直とまどいましたが、その一方で、自分が先生の想定する目安の半分しか勉強していなかったことを知りました。まだまだ努力する余地があることに気づき、全力を尽くそうという気持ちになれたのです。

堂々と返答する力を模擬面接を通して身につけた

CSCの先生の言葉どおり、勉強を続けるうちに模試の「数的処理」の成績は良くなっていきました。頑張れば報いられることを実感し、4年次5月の筆記試験に向けてさらに勉強に集中していきました。

筆記試験合格を知ったときは、うれしいというよりもホッとしました。ただ、約1か月後には面接試験が控えていたのですぐに気持ちを切り替え、志望動機などを書いて提出する「面接カード」について、キャリアセンターでアドバイスを受けました。「なぜ公務員を志望したのかが確実に伝わるように」と職員の方と記述内容の見直しを

特別区職員の職務知識の修得と自己啓発のために刊行されたハンドブック。公務員試験の勉強にも活用しました。

続けました。これは、面接カードの内容を良くするだけでなく、自分が公務員になってなにをしたいのかを改めて見つめ直すきっかけになりました。

キャリアセンターでは、面接に関してもアドバイスをいただきました。年長者を前にしても臆することなく、相手の目を見て、落ち着いて話せるようになりました。CSCでともに勉強した受験仲間とも、模擬面接を繰り返しました。友だち同士ですから、受け答えの仕方や面接中の仕草などで気になったことについて、互いに気兼ねなく指摘し合いました。

公務員試験への合格を目指して頑張った約1年2か月を振り返ると、親身に向き合ってくださる先生や職員の方、ともに高め合える仲間にたくさん出会えました。そうした人たちに励まされ、指導されたからこそ、最終合格をつかむことができたのだと思っています。

業界研究から履歴書の添削、さらに資格試験対策まで大学のサポートをフル活用しました

現代法学部4年
［内定］日本生命保険相互会社
川﨑 桃子さん

キャリアセンターを最大限に活用した

3年次の夏休み前から2月頃まで、私はキャリアセンターで週1回開かれる「就活チャレンジ講座」を受講しました。「就活とは」という初歩の初歩や、グループディスカッションの練習、それにSPI対策などの指導を受けました。

この講座は、学生がグループになってさまざまな業界について研究を進めていくのも特徴で、就職に対する視野を広げるのにずいぶん役立ちました。実際、講座でのグループ研究がきっかけで、それまで関心のなかった業界に興味を持ち、内定を勝ち取った学生もいました。私も、最終的には日本生命に志望を絞り込みましたが、金融・生保のほかにも広告や食品、不動産など、いろいろな業界に興味を持ち、説明会に足を運びました。

キャリアセンターでは、就活チャレンジ講座以外にも進路相談や履歴書の添削、面接の練習など、いろいろとお世話になりました。中でも私にとって大きな意味があったのは履歴書の添削です。キャリアカウンセラーに履歴書を見てもらうのですが、文章の添削だけではなく、私からネタを引き出すためにいろいろ質問してくださるのです。最初の頃は、例えばアルバイトのことを書こうとすると、なにを身につけて、どのような気づきがあったか漠然とわかっていても、それを他者に的確に伝える言葉が出てきませんでした。けれど、キャリアセンターで10回以上添削を受けるうちに、同じ人間が書いたとは思えないほど、ポイントがギュッと詰まった文章を書けるようになりました。

CSCで資格取得に向けて身近な仲間と刺激し合った

CSC（キャリア・サポートコース）の資格試験対策講座も受講しました。最初に受講したのは1年次の秋頃で、簿記2級、販売士、ビジネス実務法務検定といった資格を取得することができました。

資格を取得したことは、書類選考を通過するうえで確かに武器になったと思いますが、資格を取得する過程で自分がどう成長したかを語れるようになったことが面接で大きく役立ったと感じています。実際、面接では取得資格について、なぜこの資格に興味を持ったのか、どれだけ勉強したのかなど必ず質問されましたから、自分をアピールする機会につながったと思います。

CSCの講座の良さは、一人で勉強するのではなく、同じ大学の仲間と勉強できるところです。身近な存在が頑張っているのを見ると、私も負けないように頑張ろうとやる気が高まってきました。

実は、私が東京経済大を選んだ理由

履歴書の添削を見ると、いろいろな人の助けがあって内定がもらえたのだと感謝の気持ちでいっぱいになります。

説明できていないな」と感じることがありました。私でも気づくくらいですから、こういうときは面接官にはきっと簡単に見透かされていると思います。

だから私は、後輩のみなさんに、サークルでもアルバイトでも、自分の好きなこと、大切なことに全力で取り組むことが、結果的に自信をもって自分の学びとして面接官に話せることにつながるということを知ってほしいと思います。

でも、やっぱり一番大切にしてほしいのは、大学の勉強です。大学でなにを学び、なにを得たかは、どんな企業でも必ず聞かれます。ここで自分を豊かにアピールできるようになることは、とても重要なことだと思います。私は大学で成績優秀賞をもらいましたが、そのことは面接ではいつも話題になりました。ゼミや授業の中から、自分の興味のあるものを見つけ、ぜひ全力で取り組んでください！

あこがれの会社の内定を さまざまな人たちのサポート、 そして「笑顔」でつかみました！

コミュニケーション学部4年
島田 咲琳（さりん）さん
［内定］ANAエアポートサービス株式会社

就活で一番アピールしてほしいことは やっぱり「勉強」のこと！

就活中、面接で留学経験やボランティア活動などを話す学生をたくさん見ました。もちろんそうした経験や活動は素晴らしいものですが、中には「この人は話題づくりのためだけにやったのだな」「学んだことを自分の言葉で

の一つは、高校時代の大学研究でCSCの存在を知ったことなのです。もちろん、他の大学でも資格対策講座を行っていることは知っていましたが、CSCには私が「いいな」と思う資格の講座がいくつも開設されていました。高校時代の大学研究の成果が、資格試験対策のモチベーションにつながったというわけです。

ゼミのバックアップで面接対策を行った

1年次の後期に、「グローバルキャリアプログラム」（アドバンストプログラム）の選考を通過し、19週間のオーストラリア研修に参加しました。研修の最後の2週間、現地のホテルでインターンシップを経験したことで、接客業の楽しさを実感しました。そこで3年次、ANAのグランドスタッフ（空港勤務）のインターンシップに参加したのです。オンタイムで運航するため、グランドスタッフが素晴らしいチームワークを発揮している現場を見て、私は航空業界に志望を絞り込みました。内定をいただいたANAエアポートサービスは、私の第一志望です。

航空業界を志望する学生は、グランドスタッフ志望であっても、エアラインスクールに通うことが多いのですが、私はスクールの色に染まって、自分らしさがなくなってしまいそうで、最後までスクールには通いませんでした。その代わり、所属していた長谷川倫子先生（メディア論）のゼミで、1分間の自己PRなど、面接の練習をよくしていただきました。長谷川先生は「ゼミ生みんなでサポートし合って、就職活動を乗り切ろう」という方針だったのです。私は、長谷川ゼミの色に染まりました。

羽田空港でのインターンシップ。

心に余裕が生まれると「ライバル」が「仲間」になる

就活では、もちろんキャリアセンターも利用しました。キャリアセンターの就職ガイダンスで配布される就職手帳の内容に沿って、実際に就活を進めていきました。エントリーシートを書く際のポイントなども、キャリアセンターの資料を参考にしました。

そして書きあげたエントリーシートのチェックは、アルバイト先の先輩、ゼミの友だち、両親など、いろいろな人にしてもらうようにしました。異なる視点から「自分はどんな人間なのか」を把握したかったからです。実際、いろいろな人にエントリーシートを見てもらい、「私」について感じていることを聞く中で、「そんなふうに評価してくれているんだ！」という意外な発見もありました。

ANAの地上職を目指していることを知った父が、私を応援するためにANAグッズをプレゼントしてくれました！

面接が始まった当初、私は面接で話したいことを文章にし、それを覚えて本番に臨んでいました。しかし、どうも自分の表情が硬く、言葉も棒読みになっている気がしたのです。そこで、伝えたい要点を三つくらいにまとめ、それだけを前夜にインプットするように改めました。すると、文章を覚えていた時よりも、ずっと自然な笑顔で話ができるようになったのです。それまでは、覚えたことを正確に話すことで精いっぱいで、余裕を失っていたのでしょう。

心に余裕ができると、面接会場にいるほかの学生に対して「もしかしたら同期生になるかもしれない」「一緒に頑張りたい」と仲間意識が高まり、それにつれて緊張感やプレッシャーから解放されていった気がしました。おかげでいっそう自然に、明るく自己PRができるようになったと思います。

大学生活を通して「笑顔」を育んでほしい

就活を終えて、後輩のみなさんにアドバイスしたいのは、大学時代、どの国でもいいので一度は外国に行ってみてもらいたいということです。海外に行き、異文化に触れ、新しい出会いを体験することで、人間的に大きく成長できると思います。また、日本を外から見ることで、日本がどういう国なのか、そして、そこで生きる自分はどんな存在なのかを改めて考えられるはずです。

また、大学生活の中で、「素敵な笑顔」を心がけることも大切だと思います。ANAエアポートサービスでは、面接を通過すると、人事担当の方が電話で面接の内容をフィードバックしてくださるのですが、私は「その笑顔で、元気なサービスをお客様に提供してほしい」という言葉をいただきました。自分の笑顔はお客様を安心させ、元気にすることができるのかなと、社会人になるにあたって自信にもなりました。

考えてみれば、サービス業に限らず、ほとんどの仕事はなんらかのかたちで人と接します。表情が暗い人には誰だって話しかけにくいものです。「この人と一緒に働きたい」と思ってもらえる笑顔、明るさ、元気は、めざす業界にかかわらず、とても大切なものだと思います。

大学での学びに真摯に取り組めば、高い目標に臆することなく挑むことができます！

経済学部4年
［内定］日本銀行
望月 勇（ゆう）さん

自分の学びについて面接で深く尋ねられた

「日銀には、きっといろいろな大学か

ら優秀な学生がエントリーするはず。どんなところか見に行ってみたいな……」。12月に就活がスタートしたとき、私は「記念受験」のような感覚で、日銀の説明会に参加を決めました。

実際に会場に足を運ぶと、確かに東大や早慶などから多くの学生が来ていましたが、そうした学生を間近に見ても、不思議と萎縮することはありませんでした。ライバルとはいえ、自分と同じ大学生なのだから、とにかく挑戦してみよう……そんな気持ちでした。

日銀の採用は複数回の面接のみ。まさに人物重視の採用です。ただし、面接のスケジュールはなかなかハードで、1日のうちに30分程度の面接を4、5回課されたこともありました。

でも、苦しいというよりも、楽しかったというのが本音です。それは日銀の面接が、とても突っ込んだものだったからです。例えばゼミの活動を話したときも、「どんなことに取り組んで、そこからなにを学んだか」を聞かれるのはもちろん、さらに掘り下げて、「それは周囲にどんな影響を与えたか」「その経験によって自分の生き方は今後どう変わっていくのか」まで聞かれました。予想外の突っ込みに最初は驚きましたが、次第に、自分をより深く知ってもらえることに喜びを感じるようになったのです。

充実したゼミでの活動が就活での「自信」になる

内定に至った最大の評価ポイントは、ゼミの活動だと私自身は思っています。所属する尾崎寛直先生のゼミは、フィールドワークも活発ですが、レジュメの作成などの座学も厳しく、学内でもハードなゼミの一つだと思います。そうしたゼミでしっかり学んだからこそ、大学での学びについて聞かれたとき、自信を持って答えることができました。

面接では、自分が取り組んだ大学での学びの社会的価値と、そこから得た自分自身の成長を、具体的に話すことが求められます。しかも、それを「この学生を職場に迎えたい」と思ってもらえる雰囲気で説明することが重要です。そのためには、やはりゼミでどれだけ充実した時間を送ってきたかが大きいと私は思います。やはり、自分が頑張ったものは、熱く、強く語れますから。

学内にある自分を高めるチャンスを十分に活用できた！

TKUチャレンジシステムの「金融キャリアプログラム」（アドバンストプログラム）を3年次に受講したことも、私にとって大きな意味がありました。

このプログラムでは、金融業界の概況などを学び、就活のための面接指導なども受けることができました。実は私が東京経済大学に進学したのは、このアドバンストプログラムを受講したかったからなのですが、実際に意識の高い学生たちが集まっていました。この環境の中で切磋琢磨すれば、就活も乗りきれる……そんな自信がわいてきました。

就活では、有名大学の学生もライバルですが、東京経済大学の学生も、学内にあるさまざまなチャンスを生かして自分を高めていけば負けることはないし、私はそれらをしっかり利用できたのだと思います。実際に会社に入っても、その環境の中で自分をどう鍛え、ステップアップするかは、まさに自分次第です。そうした意味では、大学生活の過ごし方は、実は就活や仕事の取り組み方と共通するところが大きいのではないでしょうか。

とはいえ、就活は最後はやはり「ご縁」です。どれだけの準備をしておけばうまくいくといった正解はありません。だからこそ、選考から外されたときに「ご縁がなかっただけだ」と割り切れるように、最善の準備はしておくべきだと思うのです。

就活のときだけ自分を良く見せようというのはやはり無理です。面接では結局、今までの自分が出てしまいます。後輩のみなさんには、ゼミなどを通じて、普段から素の自分をぜひ鍛えていただきたいと思います。

リクルーター面接などで活用した名刺入れ。社会人になったつもりで、身の回りの小物や身だしなみには気を配りました。

東経大TOPICS

全学部・センターのゼミ集合!

初の合同ゼミ発表会

東京経済大学は、社会で役立つ力を身につけることを目的としたゼミ教育に力を注いでいます。2013年度もその成果発表会が開かれました。

今年度は初めて、4学部と全学共通教育センターの合同発表会となり、11月から12月にわたり、参加チームが研究成果に関するプレゼンテーションを行いました。

2014年度

東日本大震災被災者支援

東京経済大学は、2011年度以降、東日本大震災で被災した受験生・学生を対象にした経済的支援を継続しています。

2014年度は、入試受験者については入学検定料と入学登録料の免除、新1年生と2年生については罹災状況に応じて授業料、教育充実費の減免を行うことになりました。

インターンシップの成果発表会

学部、キャリアセンター、地域で行われている2013年度インターンシップ（企業実習）の成果発表会が、2013年11月13日と20日に行われました。

13日は、地域インターンシップに参加した12グループが発表。20日は、経済学部から27チーム29名（男子23名・女子6名）、経営学部から10チーム30名（男子18名・女子12名）、コミュニケーション学部から1チーム女子1名、現代法学部から6チーム6名（男子5名・女子1名）が参加し、企業実習で得た成果を発表しました。

Warm Share! ウィンター・イルミネーション

東経大キャンパスに冬の訪れを告げる恒例のウィンター・イルミネーションが、今年度も11月21日の日没時に点灯しました。1月末までデコレーションLEDが1号館前の時計塔を中心にキャンパスを彩ります。

2013年度夏、海外でのゼミ活動活発に

東京経済大学には、夏季期間を利用して「海外ゼミ研修」を実施するゼミがあります。

今年度も16ゼミの250名あまりが、ゼミ活動の一環として海外で貴重な体験をしました。また、経営学部の森岡ゼミはシンガポールの学会審査を通過して英語で成果発表するなど、活発な国際交流を行いました。

【海外研修の渡航先とゼミ】※渡航先五十音順
［アメリカ］柳瀬＆安田ゼミ、榎ゼミ、柴田ゼミ、松崎ゼミ、ロス＆深山ゼミ、陣内ゼミ
［インド］渡辺龍也ゼミ
［インドネシア］橋谷ゼミ、対馬ゼミ
［韓国］川浦ゼミ、金成垣ゼミ
［シンガポール］加藤みどりゼミ、対馬ゼミ、金鉉玉ゼミ、高井良ゼミ
［タイ］関口ゼミ
［ベトナム］関ゼミ

最難関国家試験合格速報

【公認会計士試験（平成25年度）】
在学生2名、卒業生1名が合格！
（いずれも会計プロフェッショナルプログラム出身）

【司法試験（平成25年度）】
現代法学部卒業生が合格！
法プロフェッショナルプログラム第１期生
（中央大学法科大学院修了）

スポーツとコミュニケーション

Sports & Communication

社会を多角的に見る力、実践的な伝達力を「スポーツ」から学ぶ

遠藤 愛
コミュニケーション学部准教授

東京経済大学の教師陣にまた一人、「世界」「本物」を知る人が加わりました。1990年代、女子プロテニスの第一線で活躍した遠藤愛准教授です。遠藤准教授は「スポーツ」を題材に本学の学生たちに何を授けようとしているのか、お話をうかがいました。

えんどう・まな◎元女子プロテニス選手。同世代の伊達公子、沢松奈生子、神尾米らと日本女子テニスの黄金期を築く。当時、現役を続けながら筑波大学大学院に進学し、コーチ学の研究に取り組んだ経験を持つ。世界ランキングの自己最高は26位（シングルス）。

スポーツを歴史や政治の側面から考える

2013年度から東京経済大学の教員として、コミュニケーション学部の「スポーツの科学」と、全学共通科目「総合教育科目（教養ゼミ）」を担当しています。

どちらの授業でも、スポーツを多面的な視点で考えることを大切にしています。例えば、スポーツの発展を考えるとき、都市の形成の歴史との関係は見逃せません。近代になって都市ができることによって、市民生活がより便利になり、人々は生きていく中で余暇に時間とお金を割くことができるようになりました。今、スポーツがこれだけの産業として成立する土台が、都市化によってできたというわけです。

スポーツは政治とも深く結びついています。かつて、ヒトラーはベルリンオリンピックを自身の政治力のアピールの場として利用しました。聖火リレーは、ナチスがプロパガンダ効果を狙って、同オリンピックで初めて採用されたものです。また現代でも、例えばリーガ・エスパニョーラ（スペインのプロサッカー・リーグ）における、FCバルセロナとレアル・マドリードは「伝統の一戦」として大きな注目を集めますが、これは各地方の独立意識の強いスペインの歴史的背景とも結びついたものです。

さらにスポーツは科学の発展とも深くかかわっています。そもそも、日本に「スポーツ科学」という概念が浸透し始めたのは、1964年の東京オリンピックがきっかけだと言われています。2020年には東京で2度目のオリンピック開催が決定しましたが、これからおよそ7年間で、日本のスポーツ科学はさらに発展するはずです。

自分の身体にもっと関心をもってほしい

スポーツを「人類の歴史」や「社会構造」といった大きな視点で考えていくと同時に、一人ひとりの生き方をより豊かにするものとして理解する視点も、授業では大切にしています。

学生のみなさんと接していると、「運動ができるかどうかは生まれつき決まっている」と思っているようなところがあると感じます。もちろんトップアスリートなどでは遺伝的な要素も大きいのですが、いわゆる「運動神経の良さ」には、後天的な要素も大きくかかわっています。そこで骨や筋肉といった体の構造を理解し、人がどのような段階で身体の動きを獲得していくのかを理解することを、授業では大切な目標としています。さらにトップレベルの競技者育成のしくみ、スキルを身につけるためのトレーニング方法などもテーマになります。実際、今年度の授業では、国際競技力の総合的な向上を図るためのトレーニング施設「味の素ナショナルトレーニングセンター」の研究員などの専門家を招いて話を聞く機会も設けました。

このように、スポーツを多面的に理解してもらうことで、学生のみなさんに社会に対して、そして自分自身に対してより深く関心をもってもらうことにつながればと考えています。特に、若い世代の人たちは自分の「外見」にはとても関心をもっていますが、薄皮を一枚はいだその内側、つまり体の中の状態にはあまり気を配っていないように感じます。しかし、今なにを食べて、どんなふうに身体を動かしているかに関心を持つことで、5年後、10年後の自分は大きく変わってきます。また将来、家庭を築いたときには、親として子どもの身体をつくり、育てていくためのかかわりがより豊かになるはずです。

生涯にわたってスポーツを楽しみ、自分と家族の健康について、科学的に向き合える知

識と姿勢を、授業で身につけてほしいと思っています。

コミュニケーションツールとしてのスポーツの力

私はロシア語や中国語は話せませんが、ロシア人や中国人とテニスのルールを共有し、楽しむことで、コミュニケーションすることができます。こうしたことから、スポーツは言葉や民族の違いにとらわれない、真にグローバルなコミュニケーションツールだと言われています。

しかしその一方で、スポーツを教えようとしたときに、同じ言語を話す相手なのに全く意図が通じずに苦労してしまうことがよくあります。言語を共有しているからコミュニケーションが成り立つとは限らないということを、スポーツが教えてくれるのです。

具体的な例をお話しましょう。以前、私が博士論文の実践研究で筑波大学の後輩を指導していたときのことです。筑波大学には全国から優秀な選手が集まってきますが、私が伝える言葉を十分に理解できる選手もいれば、全く言葉が通じない選手もいました。ある選手を「相手のことよりもボールに集中してきなさい」と試合に送り出したところ、試合後「集中することに集中しすぎて、集中できませんでした」と言われ、びっくりしたことがあります。この選手は言葉よりも、身体を通してスポーツを理解するタイプだったのでしょう。こうした本能でプレーするタイプには、言葉で説明しても混乱するだけです。

どうすればより良いコーチができるのか、私は考えました。そして、その選手に対しては極力言葉による説明を省き、求めているプレーを実際に私が目の前でやって見せるようにしたのです。そして「なにも考えなくていいから、私がやっているとおりにあなたもやってみなさい」と指導したのです。目からの情報を自分のものにすることに長けていたその選手は、それからぐんぐん伸びていきました。

コツを共有化する過程に学びがある

私の専門はコーチング（コーチ学）ですが、私はコーチングとは、「私のコツを、あなたのコツにすること」だと考えています。これはスポーツの世界だけではなく、学問やビジネスの領域でも言えることです。

2014年度から、私は東京経済大学でコーチングの授業を開講する予定です。内容はこれから詰めていきますが、学生のみなさんには、他者になにかを習得させるプロセスを体験してもらいたいと考えています。テニスでも、剣玉でも、お箸の正しい持ち方でも構いません。なにかテーマを一つ選び、そのノウハウを他者に伝え、相手に結果を求めてもらいたいのです。

もちろんこのプロセスは、社会人になって仕事をするとき、家庭で子どもを育てるときに経験するものと同じです。そして教える側が教わる側のレベルに降りていき、相手に合った方法で教える必要があります。きっと自分の言いたいことが相手にうまく伝わらず、試行錯誤することになるはずです。

そして、コミュニケーションを試行錯誤する中で、人にはいろんな考え方があり、理解のプロセスもさまざまなのだと身をもってわかるでしょう。自分が納得できること、当たり前だと思うことも、ほかの人にとってはそうではないケースがたくさんあることに気付くはずです。そのことは、ひいては多様性に対する受容力へとつながり、グローバル社会を生き抜くコミュニケーション力が育まれるのだと期待しています。

実は、さきほどご紹介した選手をコーチす

る過程で、その選手は私自身も気付かなかったコツを私のプレーの中から発見し、習得していました。私は「自分にそんな特徴があったとは！」と驚きました。その選手とのコミュニケーションによって、私自身の可能性が開かれたわけです。この選手とのやりとりを通して、私は、相手から学ぶこともコーチングの魅力なのだと知ったのです。

ビジネスでも必要な「確かな伝達力」を育成する

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及するにつれて、今の若い世代の人たちの人間関係が希薄になっていると言われています。インターネット上で会ったこともない人と気軽につながる反面、目の前にいる人と協同してものをつくったり、課題について考えたりすることが苦手になっているというのです。私の授業でも、学生同士でお互いの成果物を評価する機会を意図的につくっていますが、当たり障りのない言葉でしか相手を評価できない学生が少なくないように感じます。相手を正しく評価することは、相手を向上させることにつながるのに、もしかすると相手を傷つけてしまうことだと誤解しているのかもしれません。

だからこそ、東京経済大学の学生のみなさんには、実践で使える伝達力を身につけてほしいと思います。自分なりの言葉でよいけれど、思いや意図は必ず伝わる、それが実践的な伝達力です。インターネットの世界では、自分の気持ちをつぶやいたら、それが人にどう受け止められているかは気にしなくてもいいかもしれません。しかし、実社会で生きていくためには、言いっ放し、書きっぱなしではダメです。自分の伝えたいことを整理し、確実に伝え、そして相手に影響を与えるという「結果」が求められるのです。ゼミなどの場を通して、そうした確かな伝達力、そして相手の言葉に耳を傾ける姿勢、両方の大切さを学生のみなさんと確認していきたいです。

今、スポーツの世界においても、根性だけでは勝てないことは自明です。しかしどんなに科学的なトレーニングを積み重ねても、自分の中に燃えるものがないと勝つことが難しいのもまた真実です。勝利には情熱と科学の両方が必要なのです。そして、それはビジネスの世界で人を動かすときにも言えると思います。科学的な分析で明らかになった事実を、感情を豊かにわかりやすく説明できたとき、人を動かすことができます。心と科学を融合させ、普遍的な事実を「私の言葉」にする力を身につけられる授業をめざしていきます。

東京経済大学教育振興資金寄付御芳名

教育振興資金については、寄付金御芳名掲載にあたり、ご本人様のご了解をいただいた方の御芳名を掲載させていただきました。

その他匿名ご希望の方8名様よりご寄付を頂戴いたしております。（2013年7月1日から11月30日までのご応募分）

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。

東京経済大学現図書館改修計画協賛募金

目標金額　一億円

現図書館改修費用の一部につきましては、学内外の皆様からのご支援ご協力により、平成二十五年十一月三十日までに、一、六〇六件、一二七、〇八三、六七四円のご寄付を頂戴し、その基盤をさらに強化することができました。皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

なお、本寄付の募集につきましては昨年六月末をもって終了いたしました。ご協力誠にありがとうございました。

現図書館改修計画協賛募金応募状況

（平成24年10月1日～平成25年11月30日まで受付分）

	件数	金額（円）
一般法人	24	32,250,000
卒業生・卒業生法人・卒業生団体	1,481	60,793,674
法人役員・教職員等	89	12,720,000
在学生父母・一般協力者等	12	21,320,000
合　　計	1,606	127,083,674

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。

（注）

- 今回は平成二十五年七月十一日から平成二十五年十一月三十日までにご寄付を頂いた方のお名前を掲載しております。
- 平成二十五年十一月三十日までにご寄付を追加いただいた方は、累計額により再度掲載しております。また、前回まで「匿名」で掲載させていただいた方で、新たにお名前の掲載を希望された方は、金額とお名前を掲載しております。
- 領収書と免税書類は、その都度お送りしております。ご査収ください。
- 一口（五千円）以上ご寄付いただいた方の顕彰につきましては、「大倉喜八郎 進一層館」に募金寄付者銘板を設置し、ご芳名を記名して末永く顕彰させていただきます。
- 校友センター内 現図書館改修計画協賛募金係
  TEL　〇四二-三三八-七八二二
  FAX　〇四二-三三八-八〇二九

東経大の協定校・友好校など、世界に広がる国際交流

東京経済大学 www.tku.ac.jp

第46巻　第2号　2014年1月発行
●発行・編集　東京経済大学広報課　〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
［TEL］042-328-7724（直通）　［E-mail］pr@s.tku.ac.jp